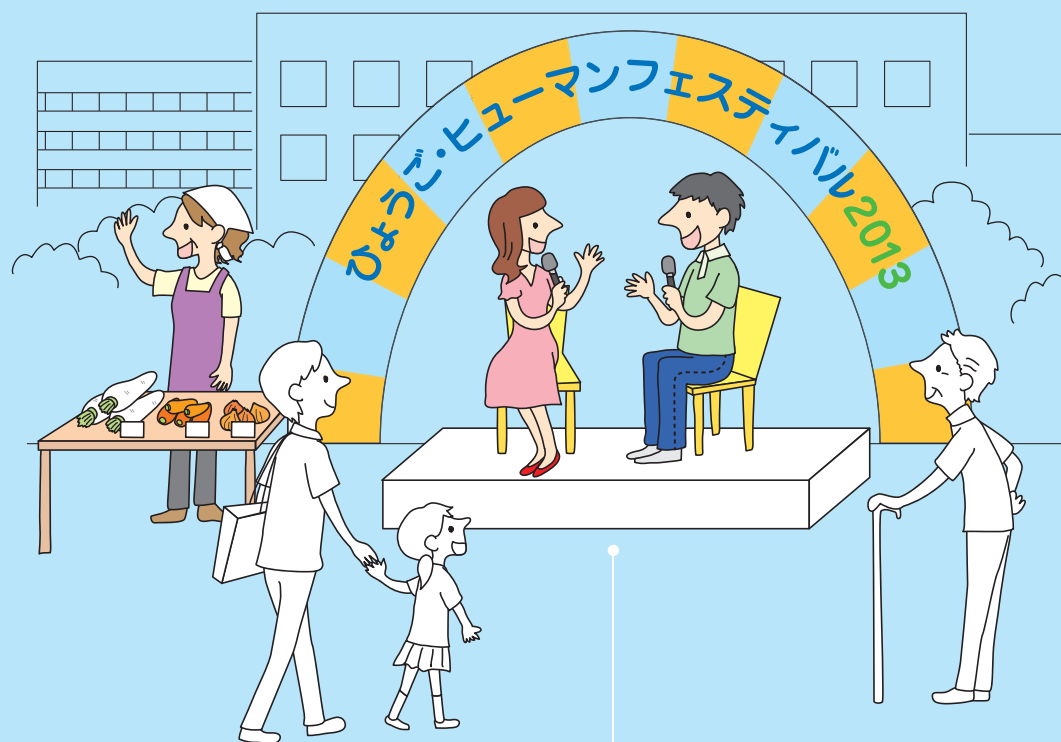


きずな

2013年
(平成25年)

8



特集テーマ

同和問題

つながりあえるまちづくり

8月 人権文化をすすめる県民運動推進強調月間

兵庫県では、日常生活の中で人権尊重を自然に態度や行動として表すことが文化として定着する社会をめざしており、特に8月を推進強調月間として市町と共に啓発活動を展開しています。3日には丹波市で「ひょうご・ヒューマンフェスティバル2013 in たんば」を開催します。詳しくは8ページをご覧ください。

2 データで見る同和問題の現状

3 あまりにも一面的な 部落に対するイメージ

石元清英さん(関西大学社会学部教授)

4 新たなまちづくり

川崎正明さん(全国隣保館連絡協議会会長)

5 今日における同和問題の現状と課題

兵庫県健康福祉部人権推進課

6 同和問題や高齢者問題を扱った 人権劇を上演

テアトロ三木(三木市)

7 ふれあいサロン

8 情報ぷらざ



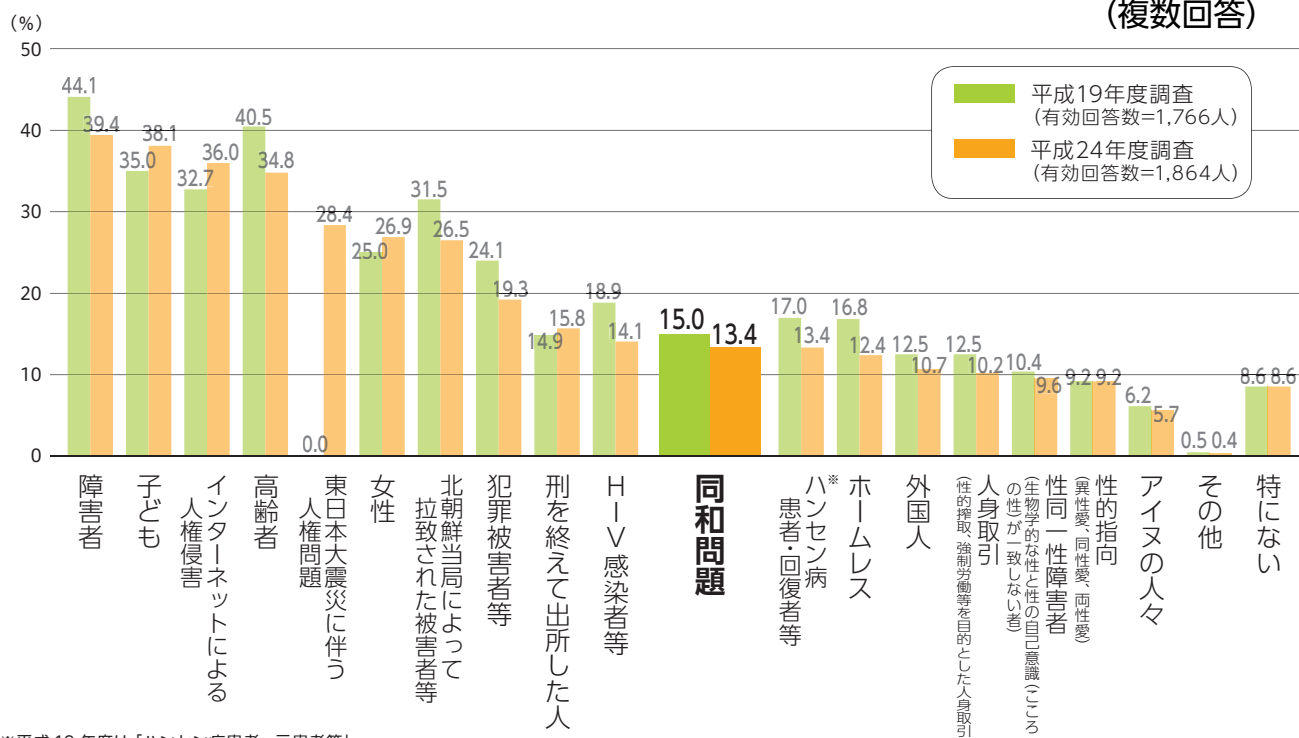
社会全体に同和問題についての理解は深まっている一方、結婚問題やインターネット上での悪質な書き込み、えせ同和行為など解決しなければならない課題もあります。今一度、同和問題への関心を深め、心と心がつながり合えるまちづくりについて考えてみましょう。

データで見る同和問題の現状

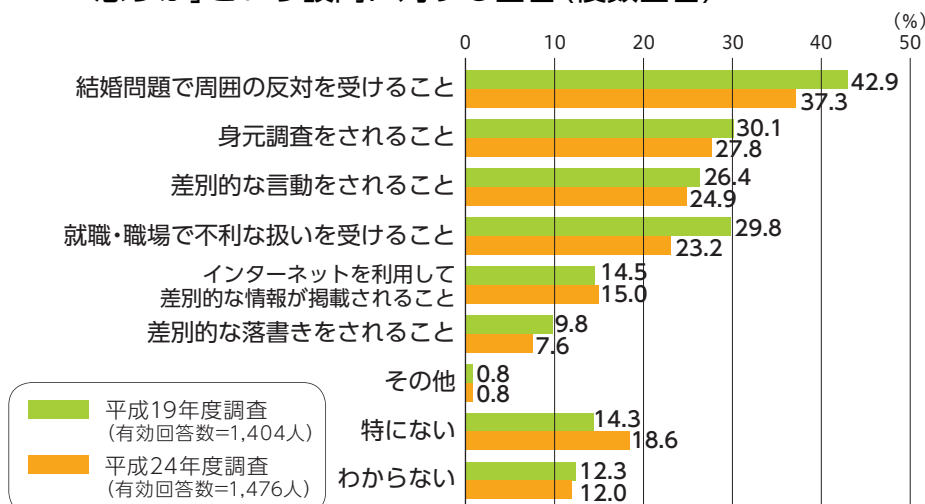
人権課題の中で、同和問題はどれほど認識されているのでしょうか。

内閣府「人権擁護に関する世論調査」の平成19(2007)年度と平成24(2012)年度のデータを比べてみましょう。

【1】「日本における人権課題について、関心があるものはどれか」という設問に対する回答 (複数回答)



【2】「同和問題に関し、どのような人権問題が起きていると思うか」という設問に対する回答 (複数回答)



【1】 同和問題に対する関心は、平成19年度の15.0%から平成24年度は13.4%に減少しています。

【2】 結婚問題や就職・職場で不当な扱いを受けるなどの割合は低くなっていますが、インターネットによる差別が増加するなど、時代とともに同和問題に関する人権問題は変化しており、依然、差別意識が存在していることがうかがえます。

メッセージ

あまりにも一面的な 部落に対するイメージ

石元 いしもと 清英 きよひで さん（関西大学社会学部教授）



私は大学で部落問題に関する講義を担当しています。学生たちに部落問題を教えていて感じるのは、学生たちが被差別部落（以下、部落という）に対してもっている

イメージがあまりにも一面的で、実際の部落とかけ離れているということです。私は

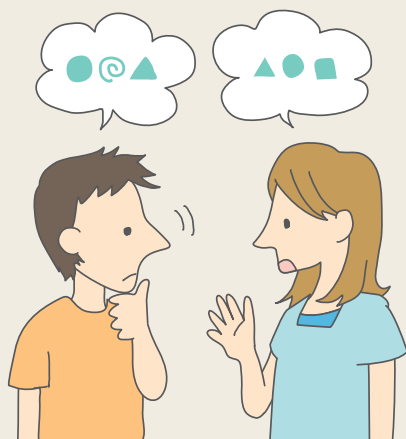
1回目の講義の冒頭に、受講生を対象にアンケートを取ります。受講生がどの程度、部落問題を理解しているのかを把握し、講義の進め方を考えるためのアンケートです。その結果によると、部落についてどの

ようなイメージをもっているかという設問（「明るい」「暗い」「豊かな」「貧しい」など、14の選択肢をあげ、あてはまるものをすべて選ぶという設問）では、「暗い」と回答

した学生が49・1%、「貧しい」43・0%、「閉鎖的」60・4%と、部落に対してマイナスなイメージをもつ学生が多いことがわかります。部落は差別されてきたのだから暗い

のだろう。貧しいから差別されるのだろう。差別の結果、閉鎖的なだろうと、考えてしまっているのです。

たしかに1960年ごろまでの部落は貧しかったですが、高度経済成長期における



深刻な若年労働力不足のもとで、部落では若年層を中心に安定的な仕事に就く人が増加しました。それに加えて、その後の同和対策事業の本格化は、部落全体を大きく変化させました。近年、都市部落で経済的安

定層の流出という問題がみられるものの、かつて指摘されたような部落の貧困は、基本的には解消しています。部落の変化は、結婚についてもみられます。部落外出身者との結婚は、戦後一貫して増加を続け、部落に住む人に限ってみても、最近の結婚では部落外出身者との結婚が大半を占めるようになってきています。^{*}2000年に実施された大阪府の調査によると、部落に居住する夫婦総数のうち、6割ほどが部落出身者と部落外出身者の夫婦となっています。

このように、部落には多数の部落外出身者が入ってきているのです。また、戦後、多くの不安定就労者が流入し、拡大し続けた都市部落も数多くあります。したがって、部落は開放的なものであり、閉鎖的などとはいえないのです。

部落に対して、一面的なマイナスイメージをもってしまうことは、大学生だけではなく、多くの市民にも共通してみられる傾向ではないでしょうか。一面的な部落観を克服するような教育・啓発が望まれます。

※同和問題の解決に向けた実態等調査（2000年大阪府）

プロフィール 1953（昭和28）年、大阪府生まれ。関西大学社会学部専任講師、同助教授を経て、1999（平成11）年から現職。同大学人権問題研究室長も兼務する。著書に「部落史研究からの発信」（第3巻）（解放出版社）、「脱常識の部落問題」（かもがわ出版）など。

新たな まちづくり

かわさき まさあき
川崎 正明さん
(全国隣保館連絡協議会会長)



同和問題の解決に向けて

「同和問題はもう解決したのでは」「同和問題の研修はもうしなくていいのでは」「同和問題は私には関係ない」など、こんな声を聞くことがよくあります。こうした声の背景には何があるのか、これまで進めてきた人権同和教育・啓発の目的、内容、手法を検証しながら、あらためて問題解決への方向性や糸口をそれぞれの立場で精査することが必要です。

現実を直視した啓発活動を

同和問題は日本固有の人権問題であり、この問題を解決するため33年間の特別対策が行われ一定の成果が得られました。しかし、今なお、インターネット上の悪質・陰湿な差別書き込み

や土地差別事件など、同和問題の解決を阻むさまざまな事象が起っています。

特に、近年の行政書士・司法書士などによる戸籍謄本等の不正取得事件における依頼内容の8〜9割は、結婚相手の身元調査であったことが明らかになり、身元調査を依頼する悪しき差別的慣習、差別意識の存在が浮き彫りになりました。しかし、こうした事件の被害は、同和地区住民のみならず、幸せになりたいという結婚当事者双方の思いを踏みにじる結果を招いたり、多くの国民のプライバシーや人権の侵害につながっています。こうした具体的事例を広く周知し、身元調査が多くの国民の不利益につながっていることを前提とした人権教育・啓発活動が求められます。

人と人をつなぐ地域コミュニティの 再生をめざす隣保館

同和問題の解決を目的として設置された隣保館は、その長い歴史の中で、差別が人と人を切



り離している現実を見据え、「つながり」の再構築を通じて人権文化が根付いたコミュニティづくりをめざし活動してきました。

地区内外住民の交流活動の推進をはじめ、高齢者や障がい者が地域活動の担い手となる実践、互いの民族や文化を理解する食文化の交流、地域自主防災教育を通じた支え合い・助け合いの訓練…。

その営みの成果は、「21世紀を人権の世紀に」というキーワードが、地域社会で根付きつつあります。豊かな人間関係あふれたまち、誰もが安心して安全なまちを実現するため、全国の隣保館は引き続き活動していきます。

プロフィール 1953（昭和28）年、広島県福山市生まれ。1975（昭和50）年、福山市役所に入庁。2004（平成16）年から広島県隣保館連絡協議会会長、中国ブロック連絡協議会会長などを歴任。2011年（平成23）から現職。



今日における同和問題の現状と課題

兵庫県健康福祉部人権推進課

同和問題とは

同和問題は、日本の歴史の中でつくられた身分差別によって、国民の一部の人々が長い間、経済的、社会的、文化的に低い状態におかれ、生活する上で厳しい差別を強いられてきた、日本固有の人権問題です。

この問題を解決するため、長年にわたり国や地方公共団体が一体となつて、生活環境、社会福祉、教育等各種分野で特別対策に取り組んだ結果、さまざまな面で存在していた格差は、住宅や道路等の住環境を中心に大きく改善され、2002（平成14）年に特別対策は終了しました。

こうした中、兵庫県において実施した意識調査結果をみると、同和問題が生じる原因や背景として、「社会全体に残る差別意識」「家族、親類から教えられる偏見・差別意識」など、社会や周囲の人々の差別意識を指摘する人が多い中、5年前に比べその割合が減少するなど、同和問題についての正しい理解と認識は着実に深まりつつあるものの、いまだに次のような結婚や居住、就職問題などに関わる課題が残されているのが現状です。

同和問題の解決を阻むさまざまな事例

●インターネットによる差別表現

インターネットの普及に伴い、特定の地区を同和問題に関連した地区として、その地区の名称や映像をネット上に流通させたり、公共の場に差別的な内容の落書きをするなど、差別を助長させる行為が依然として発生しています。

これらは、誰が書いたか分かりにくいという匿名性の高さを悪用して、誤った認識や差別意識を広めてしまふ許されない行為です。

●身元調査

2005（平成17）

年に、兵庫県において、ある行政書士が興信所等からの依頼を受けて不正に戸籍謄本等入手していた事実が発覚。また2011（平成23）年11月には、東京の司法書士と探偵社による全国規模の不正取得事件も発覚しました。このような不正行為はプライバシーの侵害であるとともに、重大な人権侵害につながりかねません。不正取得に基づく身元調査により、本人の資質とは直接関係のない出身地や家族の状況などから調べられ、それが結婚差別や就職差別につながることは極めて不合理なことであり、厳正な対応が必要です。

なお、このような戸籍謄本等の不正取得を防止するため、「本人通知制度」を導入する市町が増えています。

●土地差別調査

2007（平成19）年に、大阪府において、マンション等の開発業者から土地調査の依頼を受けたリサーチ会社が、同和地区の地域について「不人気地域」「敬遠されるエリア」など差別的表現で報告していたことが発覚しました。また、同和地区の所在について宅地建物取引業者や自治体の窓口等への問い合わせが今もあるといわれています。これは偏見や差別意識が根強く残っている表れであり、粘り強い啓発が必要です。

●えせ同和行為

えせ同和行為とは、同和問題を口実にして、不当な寄付を募ったり、高額

な書籍を売りつけたりする不当な要求行為をいいます。これは同和問題に対する誤った意識を植え付け、新たな差別意識を生む大きな要因となっています。えせ同和行為をなくすためには、同和問題について正しく理解することにも、不当な要求を毅然とした態度で拒否することが大切です。

兵庫県の取り組み

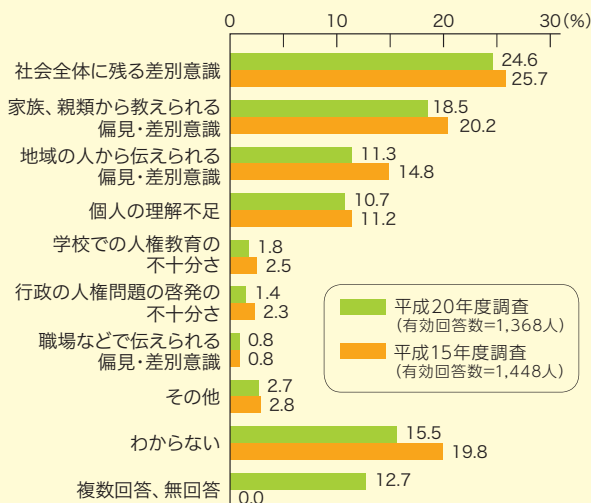
兵庫県では、人権侵害に結び付くような行為が行われることのないよう、差別のない共生社会づくりを目指した「人権文化をすすめる県民運動」を市町とともに推進しています。

今後とも、学校、家庭、地域、職場などさまざまな場において、同和問題に対する正しい認識と理解を深めるための教育・啓発が浸透していくよう、隣保館等関係機関とも連携しながら取り組んでいきます。

また、差別を助長するような事案に対しては、法務局と連携して適切な対応を図ります。

※「本人通知制度」：あなたの代理人や第三者（弁護士、司法書士等の資格を持つ人など）が、あなたの戸籍謄本や住民票などを取った際、市役所や町役場から通知を行うものです。この制度の利用を希望される人は、あらかじめ市役所、町役場での登録が必要です。第三者に交付できないようにする制度ではありません。※2013（平成25）年7月1日現在、県内では16市町が導入しています。

同和問題が生じる原因や背景として、あなたが思い当たるのは次のどれですか



兵庫県・財兵庫県人権啓発協会「人権に関する県民意識調査」
（平成20年10月調査）より

同和問題や高齢者問題を扱った人権劇を上演 テアトロ三木（三木市）



昨年冬の文化祭で上演した「村にバスがやってきた」の一場面。バス停の設置を望む住民と、複雑な思いで反対する若い世代の意見の衝突を通して、同和問題や思いやりの気持ちについて考えるストーリーです

2007（平成19）年、三木市の人権団体として発足した劇団「テアトロ三木」は、同和問題や高齢者問題、戦争と平和などをテーマにした演劇を通して、人権啓発に取り組んでいます。

メンバーは地域住民のほか教員や大学生を含む20歳代から50歳代までの13人。演じること以外に、脚本の作成、衣装や道具作り、照明も自分たちで手掛けています。12月の市立総合隣保館の文化祭に向けて、6月からシナリオについて話し合い、秋から稽古に入ります。「本番が近づくにつれて全員の目の色が変わっていきます。『この場面では

テアトロ三木

「人権について学ぶ子どもたちに保護者も頑張っている姿を見せたい」と、三木市立総合隣保館で朗読劇を始めた市民が中心となって、2007（平成19）年に発足。12月の同館の文化祭では、これまでに「長い廊下の向こうに」「鬼たちの桃太郎」など6作品を上演してきました。

問 三木市立総合隣保館
TEL 0794 (82) 8388

こう言うのではないか』などと意見を出し合って、稽古の中でせりふを変えることもあります」と代表の坂本規さん。

毎年、文化祭での公演は反響が大きく、「メンバーたちの熱演ぶりに感動した」という声が多数寄せられます。

「私たちの芝居を楽しみにしてくれている子どもたちのためにも、今年も精一杯の演技で思いを伝えたいです。舞台を見た人が自分自身を見つめ直し、人権について考える機会になればうれしいですね」と坂本さんは話します。

文化祭まであと4カ月。秋になれば煌々と明かりの灯った稽古場から、メンバーたちの情感のこもったせりふが聞こえてきます。

人権啓発DVD・ビデオのご案内 「私の好きなまち」

35分

企画：兵庫県、兵庫県人権啓発協会
2005（平成17）年

亡き父の不動産業を継ぐため、近藤聡は東京生まれの妻、由美と小学5年生の長女、晴香を連れて故郷の兵庫へUターンします。店を手伝い始めて間もなく、賃貸物件を案内した由美は、客から「同和地区じゃないよね」と聞かれ、まだ偏見が残っていることを感じます。

晴香は言葉のアクセントの違いからクラスメートとギクシャクします。ある日、晴香の靴がなくなり、友人の恵理と寛太と一緒に探してくれてコンポストから見つけ出しました。寛太が去った後、彼の靴袋が落ちていたので、住所を頼りに届けに行きました。帰宅が遅くなった理由を話す晴香の口から「南北町」と聞いた時、祖母の八重子は動揺します。夕食後、八重子も

交えた家族だんらんのひととき、同和問題が話題に上りました。寛太の母と聡が同級生だったことも分かり、昔の「落書き問題」を振り返りながら、自分たちの町についてより深く考えるのでした。

（公財）兵庫県人権啓発協会では人権啓発DVD・ビデオを地域団体や学校等に貸し出しています。また、地域の学習会向けに販売もしています。詳しくはTEL078（242）5355へ。





読者からのお便り

●6月号を読み、私たち世代は仕事や育児から解放されましたが、若い世代の人たちの育児や仕事の負担を軽くすることと、子どもたちが健やかに成長することが、これからの日本の発展に必要なだと思います。微力ながら支えていきたいです。
(太子町・熊谷光世さん)

●クロスワードパズルで脳トレを楽しんでいます。毎月、「取材ノートから」を読み、NPO等のさまざまな活動を知るたび、人権擁護の重要性について考えさせられます。
(洲本市・上撫貴子さん)

●育児と仕事の両立をめざす神戸ベビーカフェの若いママさんたちへエールを送りたいです。自分が子育てしていたころより、進んだ考え方に感心しています。育児と仕事を両立させてほしいと思います。
(加古川市・穴田敏子さん)

「きずな」のバックナンバーは、当協会または各市町の人権啓発担当部署にお尋ねください。



クロスワードを解いて、A～Iの文字を順番に並べると、
何という言葉になるでしょう？



カ
タ
ギ
の

- 1 この夏は個人旅行？ それとも〇〇〇に参加？
- 2 サーフィンを日本語で言うと「〇〇乗り」
- 3 相手の気持ちや立場をくみ取り、相互の〇〇〇を深めたい
- 4 夏が終わり、秋の始まる月
- 5 家族の生活の中心となる場所
- 8 あるものと他のものとの相違。善悪の〇〇〇はしっかりとつけたい
- 9 こよりの先に火薬を練り込んで作った〇〇〇〇花火
- 10 アルファベットの19番目の文字
- 11 この夏、何か深い〇〇〇〇を覚えるような経験ができればいいですね
- 12 特定の物事に熱中する人
- 13 大切な人には「私はいつもあなたの〇〇〇だよ」と伝えたい
- 16 アウトの反対です

ヨ
コ
の
カ
ギ

- 1 きずな。「〇〇〇〇あえる町づくり」
- 4 〇〇のない人生にしたい
- 6 昆虫採集には必携です
- 7 〇〇〇〇のない命
- 9 まじめで真心が感じられるさま
- 10 人と人を結ぶ不思議な力、巡り合わせ
- 12 新聞、雑誌、テレビなどを通じての 대중伝達
- 14 ものの根本。「弱そうに見えて〇〇は強い」
- 15 夏の風物詩の一つ。かがり火をたいてアユなどを獲ります
- 17 表現上の技巧。「ことばの〇〇」
- 18 思う存分行って十分満足すること

〈6月号の答え〉シゴトイクジノリヨウリツ

お便り掲載者

クロスワード正解者 (抽選)

オリジナルカードケースをプレゼント!



「読者からのお便り」の投稿掲載者(10月号に掲載)とクロスワードの正解者(抽選で10人)にオリジナルカードケースをプレゼント。本誌「きずな」へのご意見や感想、人々との触れ合いを通した心温まるエピソードなどを募集しています。どしどしご投稿、ご応募ください。
※投稿はペンネームの使用も可能です ※当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます

■応募方法・締め切り

はがきかファクス、メールで受け付け。クロスワードの答え、郵便番号・住所、名前(ペンネームを使用する場合も要併記)、電話番号、年齢、職業、本誌へのご意見・ご感想を書いてください。9月6日(金)締め切り(必着)

■応募先

〒650-0003 神戸市中央区山本通4-22-15 県立のじぎく会館内
(公財)兵庫県人権啓発協会「きずな編集室」
TEL 078(242)5355 FAX 078(242)5360 ✉info@hyogo-jinken.or.jp

妹尾河童さんのベストセラー「少年H」を初めて映画化

神戸出身の舞台美術家、妹尾河童さんの自伝的小説「少年H」。1997(平成9)年に刊行されて以来、初の映画化となる同作は、神戸や加古川でもロケが行われ、兵庫県もひょうごロケ支援Netを通して撮影に協力しました。

舞台は昭和初期の神戸。洋服の仕立て屋を営み、子どもたちを温かく見守る父、盛夫。大きな愛で家族を包む母親、敏子。そんな両親の下、好奇心旺盛に育った「H」こと肇と妹の好子。一家は幸せに暮らしていましたが、太平洋戦争による軍



事統制が厳しさを増していきます。

中学校に入学したHを待っていたのは連日の軍事教練でした。1945(昭和20)年、神戸は大空襲に遭い、終戦を迎えた時には、街は見渡す限りの焼け野原になっていました。その中で、神戸も日本も、そしてHの一家も新たな一歩を踏み出します。8月10日(土)から全国東宝系で公開されます。

監督：降旗康男

出演：水谷豊、伊藤蘭、吉岡竜輝、花田優里音ほか

イベントガイド

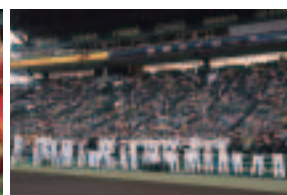
太子町 「人権文化をすすめる町民運動」 記念講演会	●日時／8月4日(日)13:30～14:10、14:20～15:50 ※無料、申し込み不要 ●場所／太子町立文化会館 ※JR「網干」駅から神姫バス「鰯」下車、徒歩約2分 ●内容／人権ポスター・標語優秀作品掲示・表彰、講演「ささえあい、思いやる言葉と心 ～言葉ひとつでこう変わる～」羽川英樹さん(フリーアナウンサー) ●問い合わせ／太子町社会教育課 TEL0792(77)1017
加西市 人権文化をすすめる 市民のつどい	●日時／8月18日(日)13:30～16:00 ※無料、申し込み不要 ●場所／加西市民会館文化ホール ※北条鉄道「北条町」駅から徒歩約10分 ●内容／人権ポスター・標語表彰式、第14回「愛の詩」表彰式、講演「鶴瑛の介護講談～ ほっとけ 心でアッパレ介護～」田辺鶴瑛さん(女流講師) ●問い合わせ／加西市人権推進課 TEL0790(42)8727
尼崎市 第27回じんけんを考える 市民のつどい	●日時／8月23日(金)13:30～15:30 ※無料、申し込み不要(先着400人) ●場所／中央地区会館(サンシビック尼崎)大ホール ※阪神「尼崎」駅から徒歩約5分 ●内容／第1部:パネルディスカッション「今、子どもたちは…～マスメディアからは見 えないもの～」、第2部:講演「『いじめ後遺症』って?」斎藤環さん(筑波大学社会 精神保健学教授) ●問い合わせ／尼崎市人権課 TEL06(6489)6658

入場無料 「ひょうご・ヒューマンフェスティバル 2013 in たんば」を開催

日時／8月3日(土)10:30～15:30

場所／丹波の森公苑、柏原住民センター（丹波市柏原町柏原5600）

NHK大河ドラマ「平清盛」の題字を手掛けた、障害のある天才書家、金澤翔子さん、泰子さん親子による人権講演会、「全盲のチャレンジャー」立木早絵さんの弾き語り&トークライブ、アンパンマンのショーなど盛りだくさんの内容です。詳しくは当協会ホームページをご覧ください。



©阪神タイガース



INAC神戸 レオネッサ



HANSHIN
Tigers

「わたしたちも
“人権文化をすすめる県民運動”
を応援しています!!